

イースターの火



イースターとモミの木？
実はエゴだよ！

先月の広報に、ドイツのイースターの習慣として、イースターエッグを作るお菓子を探したりすると書きました。その他にも「イースターの火」と呼ばれる面白い習慣があります。ドイツでは、イースターの火「Ostertfeuer」といえば、イースターの週末に、高く積み上げた枯れ木やモミの木に火を点けることを言います。クリスマスのは、ほとんどのドイツ人は本物のモミの木を家に置いて飾ります。24日の朝から部屋に置いて、1月6日まで飾ります。特にカトリックの家だとその習慣が強いと思います。1月6日は東方三博士の日になります。彼らは、イエスの誕生時にお祝いに来て、プレゼントをあげたとして新約聖書に登場します。ドイツでは、その1月6日まで家にツリーを飾り、次の日には、ツリーを特別なゴミとしてイースターの火を上げる場所を集めておきます。高く積み上げられたツリーはそれぞれの地方によつて違いますが、5m〜10mにもなります。それが普通です。

イースターの火という意味は？

昔の風習として、イースターの火を点けると運がよくなると言われています。悪魔や鬼が寄つてこないようにする、日本のお祓いやお守りと似た意味があります。イースターの火は二日前に作り始めますが、そのままにしておくことができせん。残念ながら、どこにでも人のいう事を聞かない人はいるので、夜番を立てておかないといけません。

イースターの火は、もちろん暗くなつてから点けます。とても高いところにあるので、遠いところからでも良く見えます。できれば村や町のどこからでも見えるように、山などの高いところに設置します。イースターの火が暗く寒い冬を追い払い、とても良い雰囲気です。もちろん、火を点ける前に、動物が木の中に隠れていないかどうか、ちゃんと確認します。また、地域の消防団が見守る中、点火されています。私の地方だと、12m近い高さのイースターの火になります。



ハンブルク エルベ川のイースターの火 Urheber:Sansibla

ます。家からイースターの火を見る人もいますし、点火場所に集まつて、食事をしたり、お酒を飲む人もいます。昔は火の回りで踊つたらしいですが、これはキリスト教以前のゲルマン民族の習慣の名残だと考えられています。ドイツでは、このイースターの火の到来を心から喜んでいきます。火が燃えるのを見ると心が清められる気がします。そういえば、日本の春は楽しみですよね！ 美味しい食べ物を食べたり飲んだりしながら、梅、桜などの花見を楽しみましょう！

「ハッピーイースター！」
Frohe Ostern!

国際交流員の花見
in 天平の花まつり

私の故郷ドイツには花見という習慣はありませんが、せっかく日本にいたので、私と一緒にお花見に行きませんか？ 去年の8月に下野市にやってきたので、ここでお花見は初めてです。天平の丘公園の桜はとても素敵だと何回も言われているので、とても楽しみにしています！

場所が取れるか不安ですが、天平の丘公園内、しもつけ風土記の丘資料館で待ち合わせしましょう！ ポットラックパーティーのような雰囲気にしたので、美味しい飲み物や食べ物、レジャーシートなどを持ってきてください！ お待ちしております！

● 日 4月7日(土)
午後2時30分集合

● 場 所 下野市天平の丘公園内
(しもつけ風土記の丘資料館に集合)

● 参加料 無料
(ただし、飲み物や食べ物、レジャーシートなどを持ってきてください！)

● 問い合わせ先
生活安全課 ☎(40)5555
✉ sia.shimotsuke@gmail.com